

小樽後志放射線技師会での CT の特別講演会の話

小樽掖済会病院 平野雄士

今回は少し時間を戻して、今年の 3 月 17 日金曜日小樽市民センター『マリンホール』で行われた小樽後志放射線技師会の特別講演会のお話をさせていただきます。

コロナ発生後、久しぶりに対面で行われた講演会は 400 人収容のホールに絶対密にならない 30 名ほどの技師会員が集まり、WEB も併用のハイブリッドで行われました。

演者は国立がんセンター中央病院放射線技術部、副放射線診断技術室長の瓜倉篤志先生にお願いし、『CT 撮像の基本・応用・高精細も含めて』というタイトルで講演していただきました。瓜倉先生をご存じの方は多いと思いますが、基礎から臨床までを幅広く研究し、静岡がんセンター時代から Aquilion ONE や Precision を使いこなす生粋の CANON の CT ユーザーです。

講演では寝台ベッドによる影響やアーチファクト考えた撮影技術など、基本的な日常診療に役立つことを丁寧にわかりやすく解説していただきました。地方技師会の講演なので、聴衆である会員は CT の専門家ばかりではありません。しかし CT はいろいろな場面で撮影することが多い検査なので、どの技師も困ったときの引き出しを持っていることが撮影の助けになります。瓜倉先生のお話は何度か聞いていますが、また新しい引き出しを教わることができました。小樽後志技師会には CANON の CT ユーザーが多いのでその点でもすぐに使えそうな知識を話してもらえてよかったですと思います。そのほか造影に関すること、高精細画像について、最先端の部分にも触れられ、現状の CT 撮影技術を集約したものとなりました。

札幌からも数名の技師が参加してくれて、討論も盛り上がりました。現地開催は気持ちが伝わっていいですね。そして何より、しばらく会えなかった先輩たちや仲間と改めて出会えたことは、決して短くなかったこの 3 年をかみしめる思いでした。これからも講演や勉強会を通して、楽しくやっていきましょう。